

農作物技術情報 第6号 果樹

発行日 令和6年8月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ りんご 早生種はすぐりもぎが基本です。病虫害防除は、発生予察と適期の薬剤散布を徹底しましょう。なお、早生種は収穫期を迎えるため、農薬の使用基準を遵守し、ドリフトには十分注意しましょう。
- ◆ ぶどう 全般的に熟期が早まっています。食味を重視した適期収穫を徹底しましょう。

りんご

1 生育概況

生育診断圃の果実生育(横径)は、8月1日時点の県平均で、「ジョナゴールド」が平年比102%、前年比95%、「ふじ」が平年比109%、前年比101%です(表1)。

昨年の凍霜害のような県全域に及ぶ気象災害は見られなかったものの、一部地域における6月の降雹、7～8月の高温による日焼け果が認められます。収穫に向けて、被害を受けた果実を中心に必要に応じて摘果を実施します。

表1 生育診断圃における果実生育(横径)状況(8月1日現在)

(単位:mm)

市町村	地 区	ジョナゴールド					ふ じ				
		本年 (R6)	平年	比	前年 (R5)	比	本年 (R6)	平年	比	前年 (R5)	比
岩手県農業研究センター※1		78.6	70.5	111%	79.0	99%	69.7	63.9	109%	69.7	100%
盛岡市	三ツ割	69.6	69.7	100%	69.5	100%	67.8	62.5	108%	62.6	108%
花巻市	石鳥谷※2	72.3	71.1	102%	75.3	96%	69.7	62.5	112%	66.9	104%
奥州市	江刺樽輪	64.0	66.9	96%	69.2	92%	60.5	63.3	96%	64.5	94%
一関市	狐禅寺※3	68.8	69.9	98%	80.7	85%	64.0	60.9	105%	67.5	95%
陸前高田市	米崎	75.2	69.8	108%	77.8	97%	67.5	63.0	107%	72.6	93%
宮古市	崎山	-	-	-	-	-	77.0	64.1	120%	73.1	105%
二戸市	金田一	72.8	69.0	106%	70.8	103%	72.6	63.0	115%	65.0	112%
県平均値※1(参考)		70.5	69.4	102%	73.9	95%	68.4	62.8	109%	67.5	101%

※1 県平均値に農研センターのデータは含まれていない。

※2 R4年度より定点が変更となったため、平年値は花巻市上根子(前定点)の値を使用。

※3 R2年度より定点が変更となったため、平年値は一関市花泉(前定点)の値を使用。

※4 平年値は昭和60年～令和5年の平均
(地点変更時はその年次からの平均)

2 栽培管理のポイント

(1) 早生種

ア 仙台管区气象台の1ヶ月予報(8/22発表)では、向こう1か月の天候は、平均気温は高く、日照時間は少なく、降水量は多い見通しです。このため、高温及び日照不足により着色が緩慢となり、果皮色と内部品質が一致しないまま収穫期を迎える可能性もあります。過度な着色は期待せず、食味・硬度等を確認の上、適期収穫に努めてください。

イ 直射日光が果皮へ急に当たると日焼けが発生しますので、葉摘みは徐々に進めます。高温が予想される日には、極力、果面の温度が上がる午後から実施します。

ウ 今年の満開日から見た収穫期の目安は表2のとおりですが、この目安は北上市成田の満開

日より算出しています。前述のとおり、食味・硬度等を確認の上、適期収穫に努めます。
エ すぐりもぎを基本とし、特に熟期が不揃いな「つがる」や「きおう」では徹底します。

表2 早生種の収穫期の目安

品種	満開日※ ¹	収穫期 までの 満開後数	満開後日数 による 収穫予想日※ ²	収穫期の果実品質の目安			
				硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	デンプン 指数	カラーチャート 指数※ ³
きおう	4月27日	115 ～ 125日	8月20日 ～ 8月30日	13～14	13以上	2～3	2.5～3.5
つがる	4月28日	115 ～ 125日	8月21日 ～ 8月31日	13～14	12～14	3～3.5	2～3

※¹ 満開日は農業研究センター(北上市成田)観測日 ※² きおう、つがるは収穫開始予想日

※³ つがるはふじ地色用、きおうはきおう表面色用を使用

(2) 中生種

ア 「紅いわて」の収穫

(ア)「紅いわて」は着色の良い品種であるため、着色のみで収穫を判断すると、収穫時期が早くなってしまい、食味が劣り、品種の評価を落とすことになります。食味を重視し、表3の目安を参考に収穫してください。

(イ) 系統販売など輸送して販売する場合は、デンプン指数2～2.5、直接販売する場合はデンプン指数2程度を目安に収穫してください。

表3 「紅いわて」の収穫期の目安

品種	満開日※ ¹	収穫期 までの 満開後数	満開後日数 による 収穫予想日※ ²	収穫期の果実品質の目安		
				硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	デンプン 指数
紅いわて	4月27日	130 ～ 140日	9月4日 ～ 9月14日	13以上	13以上	2～2.5

※: 満開日は農業研究センター(北上市成田)観測日

イ 中生品種(「紅いわて」以外)の着色管理

(ア)「ジョナゴールド」などの着色管理は、1回目の軽い葉摘み終了後、陽光面の着色が進んでから、葉カゲや枝カゲをつくらないように玉回しを収穫まで2～3回行います。玉回しと同時に適当な強さに葉を摘みます。

(イ) 着色適温は10～20℃です。気温の高い日が続くと、必要以上に葉摘みを強くしても着色は進まないの、過度の葉摘みとならないよう注意します。

(3) 晩生種

ア 「ふじ」は、着色期間が30～40日間と長いため、陽光面が着色してきた頃(9月下旬～10月上旬)と10月中～下旬の2回に分けて葉摘みを行います。1回目の葉摘みは、果実に密着する葉を摘む程度とし、2回目は適当な強さまで葉を摘み、陽光面の着色が進んできたら葉カゲや枝カゲを残さないよう玉回しを行います。

イ 過度の葉摘みは、葉が少なくなり果実の着色やみつ入りが劣り、翌年の花芽の充実が悪くなるなどマイナスの影響が出ますので注意してください。

3 病虫害防除および気象災害対策

(1) 病虫害防除

ア 褐斑病の発生が県内で広くみられているため、農作物病虫害防除速報 No.13 りんご編-4(岩手県病虫害防除所8月14日発行)を参考に園地を確認し、必要に応じて防除を実施します。

イ 昨年スモモヒメシンクイの被害が合った園地や、9月が高温で経過する場合は、シンクイムシ類に効果のある薬剤を9月上旬～中旬に散布します。

ウ 果樹カメムシ類が大量に飛来した場合は、効果の高い薬剤により速やかに防除を行います。

エ 早生品種の収穫期となりましたので、農薬の使用にあたっては、ドリフトや使用基準(倍率、収穫前日数等)に特に注意してください。

(2) 台風対策

強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を確認してください。また、最新の気象情報を確認し、台風の接近前に収穫を進めるなど、被害を最小限にできるよう対策を講じてください。

(3) 湿害対策

台風に伴う大雨や秋の長雨などで園地内が過湿になった場合、根部の障害による樹勢衰弱や、裂果等が発生しやすくなります。園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなど排水対策を講じてください。

ぶどう

1 生育概況

8月15日時点の定点調査における「キャンベルアーリー」の果実品質(表4)は、平年と比較して、果房や果径が大きく、糖度は高いことから、熟度は平年より進んでいます。

なお、向こう1か月の天候は、平均気温は高く、日照時間は少なく、降水量は多い見通しです。このため、高温により着色が緩慢となる可能性もありますので、過度な着色は期待せずに、食味を重視した適期収穫を行います。

表4 ぶどう(キャンベルアーリー)の生育状況(観測地点:紫波町赤沢)

調査年次	8月15日時点での生育				
	新梢長 (cm)	節数 (葉数)	房長 (cm)	果径 (mm)	糖度 (brix%)
本年(R6)	216	17.0	16.3	20.8	13.6
平 年	129	17.4	14.7	19.0	9.1
平年差・比	168%	98%	111%	109%	149%
前年(R5)	198	19.9	15.7	20.7	13.6
前年差・比	109%	85%	104%	100%	100%

※平年値のうち、結実率は、平成9年から令和5年の平均値、他の数値は、昭和49年から令和5年の平均値。

2 収穫

収穫は着色、糖度などの食味に留意しながら、品種ごとの基準糖度に達してから行います。過熟になると商品価値が低下し、裂果や脱粒の発生も助長しますので、過度に着色は期待せず適期収穫に努めてください。

※ 詳細は、7月25日発行の「農作物技術情報第5号 果樹」を参照ください。

次号は9月26日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。